



西洋経済史A(坂出)

第4講 毛織物工業とマニュファクチュア

2004年5月7日

1



前回のテーマ

- なぜイギリスが「最初の工業国家」になったのか？
 1. 「産業革命」論の系譜
 2. 産業革命「以前」と「以後」～大塚『欧州経済史』を中心に
 3. 分析視角—「産業」と「地域」
- 毛織物・綿工業/石炭・製鉄業/鉄道業・造船業の地域・産業連関的發展プロセスの検討

2



本日の演習問題とテーマ

- テーマ「資本主義の起点は都市か農村か？」
- 演習問題「マニュファクチュアラーの歴史的意義について、問屋制度との対比において論ぜよ」
- 1. 大塚久雄のマニュファクチュア論
- 2. 堀江英一のマニュファクチュア論
- 3. サフォークにおける農村織物都市の成立と展開

3



【1】大塚久雄のマニュファクチュア論

1. マニュファクチュアと問屋制の絡み合いの二つの型
 - ① 第一形態:「農村の織元」を中心とした問屋制度
 - ② 第二形態:「都市の織元」を中心とした商業資本による産業資本の支配
2. 第一形態×第二形態
マニュファクチュアの歴史的意義

4

【2】堀江英一のマニユファクチュア論

1. 堀江の大塚批判
2. 織元(clothier)の3分類
 - ① 貧乏な織元: 独立自営の小営業者
 - ② 中産の織元: マニユファクチュア
 - ③ 富裕な織元: ①②を支配
3. 羊毛生産者→織元①②③→毛織物市場の関係はどうなっているか？

5

【3】サフォークにおける農村織物都市の成立と展開

1. フランダース毛織物工業の衰退
2. イギリス農村工業の発展
3. サフォーク(東部)農村織物都市の成立
4. 織元の性格
 - ① 貧しい織り元(独立の織布工)の分化
 - ② 「ジェントリ」織元の成長

6



小括

- 牧羊業者→「富裕な織元」 →ロンドン市場
- 「中産の織元」

- この関係はどうなっているのか？→「ジェントリ」(郷紳:男爵以上の爵位をもたない地主)階層の分析

7



次回のテーマ

- 5月14日:第5講 綿工業と機械制大工業
- 大塚久雄『欧州経済史』2章2
- 堀江英一『経済史入門』7章1AB10章1A

- 演習問題「なぜ18世紀後半には綿工業が毛織物工業を急速に追い抜いたのか？」

8